

(6) トルコギキョウ

主要病害虫別防除方法

農薬による防除については、栽培ステージ、病害虫の発生状況等に応じて、散布、灌注、土壌消毒などを行う。
なお、農薬による防除の際は、農薬登録内容や使用上の注意等を遵守して実施する。

(農林水産省農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>)

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除
葉巻病 (TYLCV)	①施設開口部に目合い0.4mm以下の防虫ネットを張り、媒介虫であるタバコナジラミの侵入を防ぐ。 ②罹病植物を除去する。 ③ほ場内外の雑草はタバコナジラミの発生源となるので除去する。 【参考事項】 病原ウイルスはタバコナジラミによって伝搬される。タバコナジラミは薬剤感受性などが異なるバイオタイプが存在し、遺伝子診断で識別可能である。
炭疽病 (<i>Colletotrichum</i>)	①発病葉や発病株は直に取り除き、適切に処分する。 ②適切な栽植密度や換気により、通風を良くする。 ③強い灌水により土壌を跳ね上げたり病斑上の分生子が飛散したりする場合があるので、注意する。 【参考事項】 多湿条件で発生しやすい。 菌の生育適温は25～30℃付近である。
灰色かび病 (<i>Botrytis</i>)	①日中は十分に換気したり、夜間暖房機を利用して、多湿を避ける。 ②適切な栽植密度や換気により、通風を良くする。 ③発病葉や発病花を早めに取り除き、適切に処分する。 ④栽培終了後の株は放置しない。 【参考事項】 発病適温は20℃前後であり、多湿条件で発生しやすい。 宿主範囲が広い多犯性の菌である。
アザミウマ類	①施設やその周辺の除草をする。 ②施設の開口部に目合い0.4mm以下の防虫ネットや、目合い0.8mm以下の赤色系ネットを張り、侵入を防止する。 【参考事項】 ヒラズハナアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ネギアザミウマ、チャノキイロアザミウマなどが寄生する。 高温期の作型で多発しやすい。 ミカンキイロアザミウマ成虫
アブラムシ類	①施設やその周辺の除草をする。 ②施設の開口部に目合い0.8mm以下の防虫ネットを張り、侵入を防ぐ。 ③定植時に光反射フィルムを使用したマルチやシルバーテープを貼るなどの忌避対策を行う。 【参考事項】 モモアカアブラムシ、ワタアブラムシなどが寄生する。 モモアカアブラムシ (左)、ワタアブラムシ (右)
クロバネキノコバエ類	①灌水過多にならないようにする。 ②未熟な堆肥を使用しない。 ③施設の開口部に目合い1mm以下の防虫ネットを張り、侵入を防ぐ。 【参考事項】 育苗用土やほ場に多量の有機物を投入したり、土壌水分が多い状態で多発する。

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	
シロイチモ ジヨトウ	①施設の開口部に目合い4mm以下の防虫ネットを張り、侵入を防ぐ。	
ハダニ類	①施設やその周辺の除草をする。	
	【参考事項】 比較的乾燥した条件で増殖率が高い。	 ナミハダニ